

1. 価値観（ケルブレダ 5 章）に関連して

- a. 今の全体的、社会的風潮は果してどちらなのだろうと思いました。報道を見る限りだと、排外主義的な事件が起こると盛大に報道されることから、主流は寛容主義と取ることも出来るような気がするし、けれども世論調査（特にアメリカ）を見ていると半々のような気がするし・・・現代社会の風潮はどう読み解けばいいのだろうと悩んでいます¹。
- b. ヨーロッパのマイノリティに対する価値観についてとても興味を持ちました。多民族・多宗教の世界で生活している中で、どのような要因からマイノリティに対して寛容であるのか、とても気になりました²。

2. 格差問題

冷戦の終了は資本主義の勝利・結果としてアメリカを頂点とする国際システムの形成をもたらしたといえますが、資本主義・新自由主義の進展は格差を生み、それがまた対立を生み出しているように感じます。こうしたことを考えると合理的なシステムで説明することのできない矛盾を感じます³。

3. 寿命・乗用車・生活水準の問題、国際比較に見る違いの問題

- a. ソ連においての 1900 年代⁴においての寿命の低さにもものすごく衝撃を受けました。

¹ まさに、これこそ検討してみるに値する問題です。人々の意識の変化は、世論調査、その時々さまざまの選挙（そこでの論争点）と関連してきます。その背後にある大きな問題群との関連も検討する必要があります。ヨーロッパについていえば、オーストリアの大統領選挙、イギリスのEU脱退国民投票、ロンドン市長選挙（イスラム教徒・パキスタン系イギリス人が市長に選ばれましたが、その前の市長はEU脱退主義の代表です）、最近のローマの市長選挙（EU懐疑派）など、調べてみる必要があります。EUの在り方、難民への対応の仕方、その他の難問群で「悩んで」いるのは、ヨーロッパの人々ですね。これをいかに平和的理性的に解決するか・出来るか、これが問われています。その現実をしっかりと客観的に調べてみる一時間と資料に政略から中間報告的になりますが一のは、期末報告のいいテーマです。

² 「気になったこと」を理解できるようになるため、寛容さを生み出す諸要因を調べてみる必要があります。ケルブレは、60年代から80年代までに寛容さの時代を指摘し、その背景に重要な要因として、50年代から70年代までの高度成長・脱植民地主義などの諸要因を挙げています。期末論文テーマとして、テキスト・主要参考書のケルブレ『冷戦と福祉国家』を調べ、いろいろと関連文献を捜し、まとめることもおすすめです。

³ 80年代、特に冷戦解体後の90年代から現在に至る 25年（4分の1世紀）に、世界的に格差拡大傾向があることは、前回紹介したピケティ『21世紀の資本』が、膨大な世界的データを持って立証したことです。このピケティの実証的研究成果が、アメリカの若者を中心に、自分たちが抱えているひどい状態の重要な原因を解明し、教えるものとして、ピケティの本はアメリカでベストセラーになりました。これがサンダース現象の背景にある理論的科学的研究成果です。日本でも分厚い専門書としては驚くほどのベストセラーに。

資本主義を自由放任すれば、はてしなく格差が拡大するという現実を踏まえて、これをどう修正し、社会を正常化するか、世界的に問われています。「トランプ現象」では、それをナショナリズム・排外主義の方向で解決できるとしますが、他方、「サンダース現象」では、サンダースが掲げている主義＝民主的社会主義の理念が示すように、民主的な形で資本主義に制約を加え、資本主義の修正としての社会主義を実現する、ということになります。このサンダースがアメリカの若者を中心に広く支持を拡大してきたということも、じっくり分析検討してみる価値があるように思います。どなたか、テーマに選んでは？

問題はヨーロッパに限定されませんが、同じ問題をヨーロッパも、そして日本も抱えています。

⁴ 1900年代は、ソ連はまだ成立していません。ロシア帝国です。ツアー（皇帝・・・語源

30代前半なんて考えられません。当時の戦況の酷さ⁵が窺えました。

- b. 原因として、「寒すぎて長生きしづらい環境⁶とか貧困とかが思い浮かびました。
 - c. 父親がドイツの車が好きで、ずっとドイツの車なので、少し、その歴史に関して調べてみたいなと思いました⁷。
 - d. 乗用車の普及度の高いヨーロッパには、ブランド車種があり、市場競争がブランド・品質の格上げにつながるのではないか⁸。
4. EU離脱問題、「トランプ現象」、「サンダース現象」の世代的背景・意味
- a. トランプを支持する一般人には”白人“が目立ちますが、彼を支持するセレブリティ・芸能人は意外と”黒人“が多いです。年齢層は年配が多いです。おそらく彼らは黒人差別がまだまだ激しかったころの世代と考えられます。それがセレブリティという富裕層になり、トランプを支持するというのは、彼らの生い立ちが関係するのだらうと思います⁹。
 - b. トランプの政策・目標のどこがいけないのか、どの部分に反対なのか、自分の言葉で説明できるようにしないと¹⁰。
 - c. グローバル化は漠然と良いものとしていたければ、グローバル化による格差拡大があり、またそれが、難民問題とも大きくかかわっている点は初めて知りました。やはり人々は、「その人自身」ではなく、「〇〇人」などと、表面上で判断しがちです。肌の色や国籍は違えど、同じ人間であるという考えを形成させるにはどうしたらよいかと考えていました¹¹。

はカエサル・シーザー)が支配する農業的社会であり、人口の圧倒的部分が農村民(零細な貧農、さまざまの身分的身体的束縛を受けた極貧の人々)でした。したがって、非常に衛生状態・食生活状態が劣悪だったわけです。このあたりのこと、すなわち、寿命と社会の在り方を大きく調べてみるのもいいテーマです。「驚き」は、「問い」を生みます。期末論文テーマにしてみてもは?

⁵ 1904-5年に日露戦争がありましたが、それが「寿命の低さ」に関係しているかどうかは、調べてみる必要があります。ロシアの1905年革命が、戦争による民衆の飢餓状態を背景にしていたことは事実です。皇帝に「パンをください」と訴えに押し寄せた民衆が、皇帝の軍により射殺され撃退されて、第一次ロシア革命が勃発します。日露戦争で日本がかろうじて「勝利」したのは、このロシアにおける革命の結果と関係します。

⁶ 自然環境としての寒さは、基本的には高緯度にある地域では現在も同じですね。寒さに立ち向かうための社会的諸条件が、寿命には関係してきます。「貧困」とそれにかかわる社会問題です。

⁷ ドイツ車の歴史、発達の在り方を調べるのも、非常に面白いでしょう。たくさんの書籍・データがあります。各企業のミュージアムも、インターネットで公開されています。

⁸ ヨーロッパの乗用車の発達史を調べ、その要因を確認して行くことは大きなテーマであり、興味深いです。これもまた、重要テーマです。

⁹ 黒人でも成功者は共和党を支持する、という現象ですが、この事実評価が正確かどうか、これも検討すべきテーマになりますね。「意外と”黒人“が多い」ということですが、確かにブッシュ共和党大統領のパウエル国防長官その他、トップクラスの社会層にいる黒人が共和党员だった事実はあります。しかし、黒人の富裕層のなかで、共和党支持者がどの程度の割合なのか。ごく少数の例外を見ている可能性もあります。まさに、調べてみるに値するテーマ・問題です。社会層と支持政党の相互関係は、古くて新しい大問題です。たとえば、ナチ党の支持者は、どのような社会層だったのか、など。また、現在のヨーロッパの国粋主義派の侍史者の社会層なども、調べてみる必要があります。

¹⁰ その通りですね。しかし検討する必要があります。そのためにも、期末論文作成でじっくり考え、調査することが必要ですね。

¹¹ まさに、この問題こそ、ヨーロッパやアメリカ、日本における排外的民族主義の原因を調べ、その発生源をなくして行く理性的営為と関係します。重大テーマです。